

R7年度「認知症サポーター養成講座」が 開催されました

地域包括
支援センター
だより

9/12（金）に開催された認知症サポーター養成講座では、認知症の症状・関わり方について、介護支援専門員の須貝光雄氏よりご講話いただきました。この他、認知症サポーターによる経験手記の朗読があり、認知症の人を抱えるご家族の前向きな気持ちが紹介されました。また認知症の夫を支える妻を描いたドラマの視聴もあり、目頭を熱くしながら認知症への理解が一層深まったようです。講座終了後、受講者全員に認知症サポーターの証である「オレンジカード」が進呈されました。



認知症サポーターとは

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする人。「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組んでいます。

オレンジカードを持つことの意味は

- 地域での認知症の方をサポートする
- 身に付けた認知症の知識を友人や家族と共有する

終了後のアンケートで…

Q. 講座および研修を受講された理由は？

「自身の認知症予防のため」が圧倒的に多く、次いで「認知症について興味があったから」でした。

Q. 学んだ事をどのように生かしたいか？

「自分の認知症対策のひとつとして生かしたい」が最も多く、次いで「学んだ知識を家族、友人と共有したい」でした。

受講の感想をたくさんいただいた中から、一つご紹介します。

急に体調を崩した夫の自宅での生活を支えています。今日学んだことを少しでも活用していきたいと思っています。それには私自身の心身の健康と平穏な気持ちを維持していくことが大切だと気付きました。そして無理の少ない支援を長く続ける工夫が必要なことも。改めて日常生活を振り返り、みつめ直したいと思います。

今年も傾聴ボランティアが、高齢者施設から感謝状をいただきました

9月24日の傾聴ボランティア定例会が行われた際に、町内の高齢者施設（特別養護老人ホームあじさい苑）より昨年に引き続き、傾聴活動の取り組みに対して感謝状をいただきました。



特別養護老人ホームあじさい苑の秋山理事長と
傾聴ボランティア

会を代表して感謝状を受け取った鈴木会長は「感謝状をいただけることは私たちボランティアの一番の励みになります。今後も会一丸となって精進いたします。」と謝意を述べました。

◆傾聴ボランティアじゃすみん会では、町内3カ所の高齢者施設と個人宅の傾聴活動をおこなっています。65歳以上の独居および日中独居の方で、傾聴ボランティアの訪問をご希望の方は地域包括支援センターへご連絡ください。

申込・問合せ先 河内町地域包括支援センター ☎60-4071